

富士と湖の 自然をみつめて

Nature in and around Mount Fuji



広島大学との共同野外実験で大きな成果～絶滅危惧チョウの保全が一步前進～

紀元前の昔から、シジミチョウ科の幼虫はアリと共生して天敵から守られていることが知られ、興味深い生態として注目されてきました。しかし、この共生関係がどのような仕組みで保たれているのかは、現在でも世界中が注目する謎となっています。河口湖フィールドセンター自然共生研究室は、広島大学の本田計一教授・大村尚助教と共同で、この謎の解明に取り組んできました。今回の野外実験は、絶滅危惧のミヤマシジミの幼虫が、なぜ色々な種類のアリによって守られるのかを探るためのもので、この謎が解明できれば絶滅危惧のチョウを保全する方法の一部も明らかになると期待されます。

台風のため、9月3～7日の予定が5～10日に延期されましたが、5日の夕方に大村尚先生が約650 km離れた広島大学から車で8時間以上かけて来麓され、翌6日から共同で野外実験を行いました。6～8日は梨ヶ原に入れなかったため、次に最も近いミヤマシジミの生息地身延町へ通って実験を行いました。9日には、自衛隊北富士演習場から特別に入場許可をいただき実験を行うことが出来ました。毎日のように富士山がきれいに見える台風一過の好天に恵まれ(写真)、予定していた実験を4日間で終えることが出来ました。

これまで、シジミチョウ科の幼虫には背中に蜜腺があり、その蜜をなめることでアリが幼虫を天敵から守っていると考えられてきました。確かに蜜腺は大事なのですが、それ以外の器官も(詳しくはまだ発表できませんが)、アリとの共生関係を維持するのに大切であることが確かめられ、次のステップへ向けて大きな第1歩となりました。今後も広島大学との共同研究を進め、早く皆様に謎解明の報告ができればと願っています。



温暖化の影響？今年は昆虫の発生状況も異常です



8月28日に梨ヶ原に定期調査に向かいました。そこで日本鱗翅学会でお世話になっている2名の理事にお会いすることが出来ました。一人目は愛知県の間野さんで、京都の木下さんと一緒に調査に来られていて、木下さんが、「こんなのが採れました」とおっしゃって見せて下さったのがキベリタテハでした。このチョウは名前の通り、チョコレート色の地色にクリームのような黄色の縁(ヘリ)が目立つきれいなタテハチョウです。富士山は日本でも最南に近い生息地で、通常は標高1600m以上の亜高山帯を中心に生息していますので、標高1000mに満たない梨ヶ原で採集されるのは珍しい事です。私自身も、9月18日に梨ヶ原で確認しました(写真)し、8月29日には本栖高原でも確認しています。また、8月29・30日には標高約1700mで、9月10日には標高2400m近い富士山御庭付近でも複数確認しており、今年の富士山は大量発生の年だったようです。

8月28日にお会いした2人目の方は日本大学の岩野教授(写真右)で、北海道大学の佐原先生(写真右より3人目)を案内してヒメシロチョウの調査に来られていました。佐原先生は、北海道に生息するエゾヒメシロチョウと本州に生息するヒメシロチョウの関係を染色体とDNAから調査されており、その実験の材料を探しに来られたとのことで、4人で協力して成虫数頭と卵・幼虫が数頭採集出来、当日北海道に持ち帰られました。しかし、北海道に連れ帰ったものの半数が死んでしまい再度材料を送ってほしいといわれ、9月11・19日に調査したのですが、全く卵・幼虫・成虫がみつかりませんでした。通常の年は、蛹で越冬するために9月中旬から10月に産卵が行われるのですが、今年は異常な年になりそうで心配しています。

春から動植物の発生が1週間から10日以上遅れるものが多かったのですが、それが夏にも尾を引き、全体的に異常な年になりそうです。様々な動植物の、秋以降の変化にも注目してみたいと思います。



ショート・ニュース

- 今年度のホタル・オオムラサキ賞の募集は、例年通り9月30日に締め切られます。10月中旬に審査が行われ、11月広報で入賞者をお知らせ出来ると思います。
- 船津胎内樹型と周辺の自然林で、NHKワールドの富士山特集のための取材が行われました。また、船津胎内樹型は、来年3月から始まる朝日新聞出版の世界遺産シリーズでも取り上げられる予定です。

ご意見・ご質問は、TEL 0555-72-4331 (FAX 72-4341) 河口湖フィールドセンターまで

STELLAR THEATER NEWS

富士山河口湖音楽祭2011

富士山河口湖音楽祭は河口湖ステラシアター、円形ホールなどを舞台に世界的な指揮者、佐渡裕氏の監修のもと開催され今回で10回目の節目を迎えました。

この音楽祭はアーティスト、ボランティア、各学校の先生、地元中高校生等によって実行委員会が結成され、子供から大人まで、音楽をより身近に楽しめるイベントとして行われています。

今年の富士山河口湖音楽祭を写真で振り返ります。

8/11 オープニングコンサート スペシャル企画 「題名のない音楽会」公開収録 会場 ステラシアター



©テレビ朝日

滅多にない機会に幸運な当選者たちが席を埋め尽くしていた。

8/12 スーパーキッズ・オーケストラ 「くつろぎAfternoonコンサート」 会場 ショッピングセンターBELL



気軽に楽しめる無料プログラムに買い物客も足を止め聴き入る。

8/13 ハーモニーコンサート(ふじ山麓児童合唱団ほか) スーパーキッズ・オーケストラ コンサート 会場 ステラシアター



力強い合唱と息の合った合奏をそれぞれ披露し、観客を沸かせた。

8/14・15 《子供たちと一緒に過ごす》 奥村愛 ミニコンサート 会場 円形ホール



風船が舞うホールで、子供たちは演奏家から音楽の楽しさを学ぶ。

8/18

**及川浩治
ピアノ・ミニ演奏会**

会場 河口湖美術館



パワフルな音色に惹かれ、一人、また一人と観客が集まった。

8/18

**吹奏楽国内トップチームによる
フレンドシップコンサート**

会場 ステラシアター



国内の精鋭たちが集結し、個性豊かな手法で会場を盛り上げる。

8/18

**佐渡裕の音楽レシピ
～音楽の作り方～**

会場 ステラシアター



真剣な表情で課題曲に挑む佐渡氏と指揮者アカデミーの受講生。

8/20

**ファイナルコンサート 佐渡裕/指揮
「カルミナ・ブラーナ全曲」**

会場 ステラシアター



ファイナルに相応しい舞台。拍手がいつまでも鳴り響いた。

様々な演奏が繰り広げられた10日間を振り返り、佐渡氏から「10年間、この音楽祭をボランティアの皆さんが支えていることを誇らしく思う」と、うれしい言葉を頂きました。また来年出会えることを誓い、フィナーレの『星条旗よ永遠なれ』の演奏で締めくくられました。出演者のみならず観客も自分の声を、身体を、あるいは得意の楽器を使って参加したこの曲は、まさに音を楽しむ、と書き“音楽”————その言葉にびたりと当てはまるのではないのでしょうか。



♪自然の香りが響きわたる♪

河口湖ステラシアター & 河口湖円形ホール

<http://www.stellatheater.jp/>

このページについてのお問合せは、河口湖 ステラシアター 72-5588までどうぞ

♪優しい音が湖風に舞う♪

